

インターネットの進展とそれによって起きた社会の変化は大きいものだけでも、①ウェブによる情報発信力の拡充②メールによる連絡・意思決定フローの変化③検索エンジンによる「共有世界事典」の出現などが、実はもう一つ大きい変化が押し寄せている。

「アスタリスク」というオープンソースIP-PBX（IP構内交換機）の登場で、DNS・ウェブ・メールの各機能が構成されるネットサーバーの機能に「TELサーバー」が加わり、130年以上も単独で運営されてきた音声通信システムが、ネット上で構築・管理できるようになったのだ。

アスタリスクは、米ディジウム社のマーク・スペンサー氏が開発。パソコンにインストールされたソフトフォンと従来型電話機が自在に繋がることに加え、保留・転送・コールバックなど通常のビジネス電話機能や、ボイスメール、電話会議など先進機能がすべて無償で使えるとあって電話業界にかなり大きな衝撃を与えた。

ネットの主流となった、ソフト開発に必要なコードを公開するオープンソースソフトのため、既存ソフトとの連携による独自システムの構築や機能追加が可能である点もメリットだ。

世界が内線でつながる

このアスタリスクを使ったIP電話でも「インターネット電話」に分類されるサービスはとくに先進的だ。ネットにさえ接続されていれば、いつ、どこにいてもビジ

アスタリスクが電話を変える

ネス電話が使える。極端に言えば世界の5カ所にいる5人を内線環境、つまり通話料なしでつないでしまうのだ。

数年前は一般電話からの着信できない、電話機が使えない、03や050の番号が付かないといった制限もあったが、今はそれもない。番号ポータビリティも使えるうえ、ウェブページに「電話ボタン」を付ければ、すぐ無料電話がかかる「クリック・トゥ・コール」にも応用できる。

OS（基本ソフト）の歴史は独自仕様からLinuxのようなオープンソースOSへと大きく変わった。電話が従来型PBXから、オープンソースIP-PBXへ移行していくのも自然の流れだろう。しかしこの変化は、当然、各国キャリアの経営を直撃しつつあり、NTTも例外ではないという。

それにしても、である。ドイツ人による電話装置の発明から148年、国内電話サービスの開始から118年。固定電話のみならず隆盛を誇る携帯電話の経営すら危機感をもって語られる時代が来るとは、10年前に誰が予想しただろう。インターネットの革新力、破壊力を象徴する事態といえる。

（リンク社長 岡田元治）

|| 木曜日に掲載



《おかだ・がんじ》1955年京都府生まれ。横浜の全寮制、山手学院中高を経て、早稲田大学商学部卒。翻訳・編集・広告制作に従事したのち87年に広告制作でリンクを設立、社長に就任。96年富山市のイーティーワークスと共同でAT-LINK専用サーバ・サービスをスタート。専用ホスティングとして国内トップの台数を誇る。